

文教厚生常任委員会活動報告

文教厚生常任委員会所管事務調査の進捗について

5月18日開催の文教厚生常任委員会協議会にて地域コーディネーターをお招きし、現況と課題等について現場の視点からお伺いしました。

当日の意見・情報

- 1 地域コーディネーターは市内全ての小・中学校に原則1名配置。
- 2 地域協働合校推進事業は地域コーディネーター中心に推進。
- 3 地域の協力者が高齢化や固定化し、コロナ禍においては特に協力依頼が難しい。
- 4 タブレットの活用で、児童生徒の発言の機会が増えた。
- 5 地域に出て調べたことをタブレット内で共有。

この調査を踏まえ以下について今後追究する方向となった。

- 1 現状：地域協力者の高齢化・固定化。

課題解決の糸口①：担い手の確保や後継者の発掘

- 2 現状：地域にある歴史や文化を次世代に引き継がれていく術が確立していない。

課題解決の糸口②：地域の歴史・文化的資源の教材や地域の語り部の話などをデジタル保存・活用

* 今後、課題解決に向けて先進地自治体の事例を学び、歴史・

文化資源を活用した持続可能な社会の創り手を育む教育について研究してまいります。

6月定例会の委員会審査

* 【議第 44 号】

草津市医療費特別助成条例および草津市老人福祉医療費特別助成条例の一部を改正する条例案

* 【内容】

健康保険法等の一部改正に伴い、一定以上の所得のある後期高齢者の医療費窓口負担割合について、1割から2割負担に見直すもの。

* 【議員】

2割負担となる対象者数と負担軽減措置に係る周知を求める。

* 【市】

後期高齢者医療の被保険者1万5,493人の内、約4,200人が2割負担に移行する見込みである。負担割合が引き上げになる方につき、3年間、負担軽減措置が行われる。丁寧な周知に努め、漏れが発生しないように努める。